

令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第2回）【概要】

日 時：令和5年10月10日（火）午前10時から正午まで
会 場：千葉県教育会館本館604会議室

1 出席委員（敬称略・名簿順）

谷口 和巳、吉野 毅、横瀬 正史、武富 恒徳、日根野 達也、三浦 明久、酒井 昌史、
佐久間 勝彦、粕谷 哲也（副会長）、石川 和之（会長）、鶴岡 克彦、菊池 清美、
國見 亜姫

2 次第

（1）開会のことば

（2）県教育委員会あいさつ

（3）委員紹介

（4）報告

①令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜における採点誤りについて

②令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜について

ア 結果について

イ 調査書の評定について

ウ 中学校及び高等学校からの意見について

③令和6年度千葉県公立高等学校入学者選抜について

ア 入試日程について

イ 令和6年度千葉県公立高等学校第1学年入学者選抜要項について

ウ 選抜方法について

④ その他

（5）協議

① 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について

② 令和7年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案について

③ 入試改善を受けて実施される令和6年度選抜について

④ その他

（6）閉会のことば

3 報告に対する意見・要望等

① 令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第1回）の概要について

② 入学者選抜の受検に係る調査の結果について

4 協議内容

① 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について

視点の1「入学者選抜を一本化したこと」について

- ・一本化により教職員の入学者選抜業務による負担軽減が大幅にされ改善されたと思われる。
- ・特色化選抜がなくなり、一本化したことにより、今後どのような特色を打ち出し、選抜につなげていけばいいのか課題である。
- ・一本化前は、前期選抜で挑戦し、後期選抜に現在の自分に実力に応じた学校の選定を考えていた。ただ、前期選抜で落ちた生徒には、絶望感が大きい子もいた。一本化したことで生徒が、現実を見つめる時間ができたことが肯定的な意見となっているのではないかと。
- ・不安は減少傾向にある。

視点の2「学力検査の日程」について

- ・2月下旬は適正であると職員より聞いている。調査結果を踏まえ、2日間の実施についても、受検者の負担を考え、適当であったと捉えている。
- ・2月下旬の本検査実施については、校長や職員も適切であると感じている。授業時数の確保、教科書の進捗等、授業を進める上でも、先生方は余裕を持って実施している。
- ・2日間実施の学力検査は、授業時間の確保等、生徒に配慮していると感じる。実際、学校の定期テストも2日間で実施する学校は多く、先生も受検に対して配慮している。
- ・公立高校受検日は、私立高校受験日から半月空きがあり、私立高校だけを受験した生徒と、公立高校を受検する生徒で差があることが気になる。私立高校、公立高校の受検日の空き期間を短くできないかと感じた。
- ・県立高校入学者選抜の改善方針、検査実施時期は2月下旬の2日間で実施したのが2年前の案で、東京、神奈川、埼玉が2月下旬に実施した。また、平成30年から近隣都県の入試日程の資料では、東京、神奈川とも日程は殆ど動いていない。対して、千葉県は毎年のように日程が変更となっている。しかし、アンケート結果等でも肯定的な意見が多いことから、2月下旬の実施で問題性はないと判断した。
- ・高校と大学とは入試の流れも回数も違うが、一本化で負担が減ること、2月下旬にそれぞれの学校で認識をもっていること、アンケート結果から改善が見られたことから、学力検査日の日程には賛同している。

視点の3「調査書」について

- ・中学校は、気を使って調査書作成に臨んでいる。高校は合否の判定よりも、どのような生徒を受け入れて、どのように指導していかなければならないかを確認する意味で、調査書は役立っており、時間をかけてみている。
- ・中学校の先生に負担をかけているが、どのような記載方法が適切であるか、毎年考えながら進めていく必要があると受け止めている。
- ・評定平均の9.5が廃止されたことは、校長の中でも、肯定的・否定的回答が分かれている。これは、9.5を超えた学校は肯定し、厳しめの評定をつけた学校はいかかなものかと感じている。

- ・受検者が自分の評定合計とその平均の操作については不透明である。
- ・評価の観点が増えたことで評価をつけることが難しくなり、正当な評価をしていくことが課題になる。
- ・現行のままでよい。
- ・どのような生徒を育てていくか、そのための観点をみるために調査書は必要である。
- ・書き手や学校によって、内容の違いが生じることは難しい問題と感じている。
- ・企業では、採用する人がどのように育ててほしいかを考えながら採用に至る。就学時では、子どもはまだ粗削りなところがあると思われることから、調査書の作成にはある程度標準的な評価方法や表現が必要であると感じる。

視点の4 「学力検査」について

- ・英語の検査が60分に変更となったが、リスニングの占める割合が増えていることも考えると60分は、適当ではないか。
- ・英語のリスニングは非常に大事だと思うので、60分になったことについて、6割強の中学校の校長先生が肯定的というのはよくわかる。
- ・5教科同じ時間の方が良いと思う。なぜなら、定期テストも中学校はそれに合わせて時間割を組む。英語が60分になったことで、英語のテストは60分、他のテストは50分になり、1日の時程の組み方も少し変わってくる。そういったことで、生活の中のリズムがずれてしまう。
- ・高校入試対策委員会で調査したところ、「国語の聞き取り検査について、国語の学力を測る上で必要か」というような問いかけについては、およそ44%の公立高校の校長が、「そう思わない」、「あまり思わない」と回答している。個人的には、出題の方向性も色々あるかと思うが、今後は廃止または改善というような検討をお願いしたい。
- ・国語の方に関しては、9割前後が肯定的だという回答だが、意外と国語科の先生に聞くと、聞き取りに関しては、「本当に必要か」という意見が出る。実際に授業を担当している国語科の先生方にアンケート取った場合は、肯定的、否定的の数字が少し変わるような気がする。
- ・国語の読み取りに関しては、入学後にその内容に関して、何かしらメリットがあるのか、多角的にアンケート等を取りながら考える必要がある。大学の場合は、小論文試験によって、テーマについて思考力、論理的判断能力を審査している。
- ・なぜ今、「国語の聞き取りは必要なのか」という問いが出たのか。社会情勢が変わったのか、高校の受け入れが変わったのか、時代背景なのか、背景にあるのは何なのかを整理しないといけない。「必要ないのではないか」という印象でやるのは、まずい。しっかりと議論する必要がある。
- ・国語の聞き取りは、社会で必要な能力だと思うが、学力検査の場で本当に必要なのかは、学力検査の枠の中でみていく必要がある。
- ・検査を運用している立場では、できれば放送による検査については、少ない方がいい。施設面で放送施設が老朽化している学校も多くあるので、放送事故のリスクというのが非常に大きい。リスクマネジメントの面からしても、軽減になるのかと思う。
- ・リスニングは機材を用いる操作があるので、余裕を持った時間設定は必要がある。

- ・無解答の問題は、「最初から問題を解く」、「一度見渡して、できるものから解く」という戦術的な場合と、順番に解いて最終的に時間がなくなる場合の実態もあると思う。また、とりあえず選択肢を選んで解答する受検者もいるし、難しい話だと思う。
- ・問題の難易度について、問29で難易度についての理由があるが、数字だけでなく、それぞれの科目の平均点と照らし合わせて解答の数との整合性が取れているか等のデータの見方をした方がいい。
- ・英語の時間や国語の聞き取り検査は、時間をかけて検討し導入した。課題がある場合は意見を集約して、改善箇所を考える必要がある。
- ・放送設備の問題は、国語だけでなく、英語も同じだと思うので両方ともしっかりとやるのが前提だと思う。

② 令和7年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案について

- ・2月下旬となって4年間しかたっていない。A案からB'案は2月の中旬である。何を拠り所にして入試日を決めるのかを踏まえるべきである。この4つの中から選ぶことに非常に問題を感じる。
- ・4案は「2日間の検査日の間に休日を挟まず、検査前日直後は週休日とならない。」などを拠り所にしてしているが、他都県であれば日曜日が入試日のところもある。検査日が月曜日になり、金曜の準備が難しいのであれば、採点誤りを防ぐために臨時休業日を増やすことができるとしていたので、土曜、日曜を検査日にし、その分を振替休日にすればいいと思う。もう私立高校がやっている。
- ・以前県立中学校の入試日を、土・日曜日を避けるように実施していたが、東京、神奈川県等々では入試の日程が決まっており、公立の日程が決まらなると私立中学校の試験日の設定できず困るということで、県立中学校の入試日を固定した。
- ・公私の話合いで、振り替え休業日を設定することはできると、県教育委員会の担当者がきちんと答弁している。一本化した際に検査を2月下旬に実施するという一番最初の決定を踏まえて、C案として20日、21日にするのが、令和7年度選抜ではやむを得ないと思う。
⇒例えば、出願や発表のシステムなど、一本化してからの3年間で変更した部分もある。今回提案している日程も、採点誤りによる採点日数の確保という面が大きく、それによって検査から発表日までの期間が延びると、卒業式や大学入試などの色々な行事と重なってしまうという心配もあると聞いた。改善方針の案、2月下旬に2日間で実施するということも含め、一本化してからの3年間、4年間の状況を踏まえ、新しい制度に移行して検証する時期にきていると考える。
- ・アンケート調査では、公立生徒、中学校及び私立高等学校長9割程度が、保護者の8割が、公立高校長は6割程度が、日程について現状でいいという結果が出ている。東京、神奈川、埼玉は入試日を日曜と土曜とか月曜にした場合は、どのような形で検査を実施しているのかを調べていただきたい。

- 公立高校と中学校の先生から様々な意見が出ることで検査日の日程がどんどん前に来ている。同様のことは、東京も神奈川では、どのように対応したのか。働き方改革についても考慮し、中学生にとってどの日に設定するのが望ましいのか、それとも、公立高等学校として、様々な状況から、その時々によって検査日を動かすことが望ましいのかも踏まえて検討して欲しい。
- 入試日程を検討する際は、入試日程が早い私立学校が多く合格させているから、公立高校も検査日の日程を早めたらいいんだというような理由ではなく、合理的に日程について検証することが望ましい。
- 例年の中学校長へのアンケートにおいて、入試日程への一番の要望は、本検査の前日を週休日しないことであった。事前の指導や健康管理などの面から、また、コロナ等への対応があっても、前日が課業日であれば高校にスムーズに連絡ができる。そのことが生徒・保護者も一番安心する。
- 高校は、非常に倍率の高い学校、残念ながら定員割れを起こしてる学校等、学校によって受けとめ方は違う。例えば二次検査を毎年実施する学校の場合、その準備や採点業務があり、受検する人数は少なくとも業務の流れは一般入学者選抜等と同じであり、相応の負担がある。受検生が多いと、処理する件数が非常に膨大で、かなりの時間も取られる。また、当然ミスしてはならないという精神的、肉体的な負担もある。採点誤りを起こさない万全の体制を築くため、二次試験まで含めた処理について余裕ある日程を要望している。
- 入学者選抜全体で考えると、発表が3月の月上旬、本検査が2日、追検査に1日、出願が2日半、その他志願変更が2日等、利用する日数が決められている。どの案も一長一短、特徴がある。結局何に主眼を置くのかで意見が分かれる。
- 高校側の入学者選抜の実施運用面として、採点や会議資料の作成等、正確さに重点を置いている。二次検査を含めた余裕のある日程等々を考えると、追検査の後に合格発表まで1日または2日という案が示されており、採点ミスを防ぐための改善策の事や、正確に判定会議を行うための選抜資料を今一度見直す期間も踏まえるという視点で検討すると良い。
- 何を優先するかによって、どうしても選抜業務等で要する日数が決まっているので、暦の関係で、その時々で日程については、多少動かさざるをえない。
- 日本の学校が4月始まりだと考えると、どうしても2月下旬に試験を持ってこざるをえないが、第3学期は3ヶ月という短い期間でありながら、非常にタイトな日程で重要な行事が設定されている。卒業認定考査、入学者選抜検査、追検査、進級考査、卒業式、入学候補者説明会、卒業式、募集等、教職員の負担が多い。
- 中学校の卒業式が3月の1週目の週末等にあることを踏まえると、その頃に高校が決まっていない中学生も、卒業式の練習や卒業に向けての活動がある。試験日、発表日が遅くなるにつれて保護者としては、公立高校に合格できず、私立高校に入学するとなると、準備のための日数がすごく少ない。少しでも早いほうがいいと。現在の案の数日の変化で何か違いがあるのか。
⇒授業時数確保や、様々な立場からの要望の折衷案でもあり、わずかな違いに見えるかもしれないが、多様な意見を踏まえたものである。

- ・検査の日付を固定する考えもあれば、例えば第3週目の水曜日、木曜日のように曜日を固定する考えもある。下旬という定義をしっかりと確認する必要がある。出願の受け付けについても同様である。そうすることで大体毎年千葉県はこの日程だということがわかり、公平性も出ると思う。
- ・保護者の立場、生徒の立場など、様々に考えるとなると、検査日の交通事情なども考えられていると思う。多角的に考えていくことが必要である。
- ・検査後に必ずウィークデーが入るなど、学校における採点の都合や、先生方の精神的な面だけでなく、間違いが起きないように様々な配慮をされていると思う。多角的な考え方のどこを重視するのかについて、様々な意見があると思うので、決めた方法でやってみると良いのではないか。
- ・2月下旬と決めているのであれば、なるべく合わせるのは当然だと思う。日程を決める基準を、日付にするのか曜日にするのか、もう少し枠を広げて考えるか、その時の状況に合ったやり方をとるべきだと感じた。
- ・子供たちにとって公正公平な試験になることが話合いの趣旨だと思う。期限が決まっているのであれば、リスクが少なく、子供たちにとって公正公平な入試内容になるようための日程という視点で考えることが一つの方法だと思う。
- ・入試にかかる本検査前後の学校行事を含めた子供たちの動きはすごく大事で、色々なことが子供たちに関わってくる。多分ベストな答えは出てこないと思うので、ベターな答えを出していくしかないのではないか。

③ 入試改善を受けて実施される令和6年度選抜について

- ・意見無し

④ その他

- ・今後の日程について、第3回協議会は11月13日（月）の午前開催予定。
- ・第3回協議会の会場は、第1回と同様のホテルプラザ菜の花の5階「あやめ」を予定。